第25巻 第9号（通巻第294号）2013年9月25日発行（毎月1回25日発行） 平成元年8月15日第3種郵便物認可 ISSN 0915-3217 Shokaki Naishikyo

消化器内視鏡

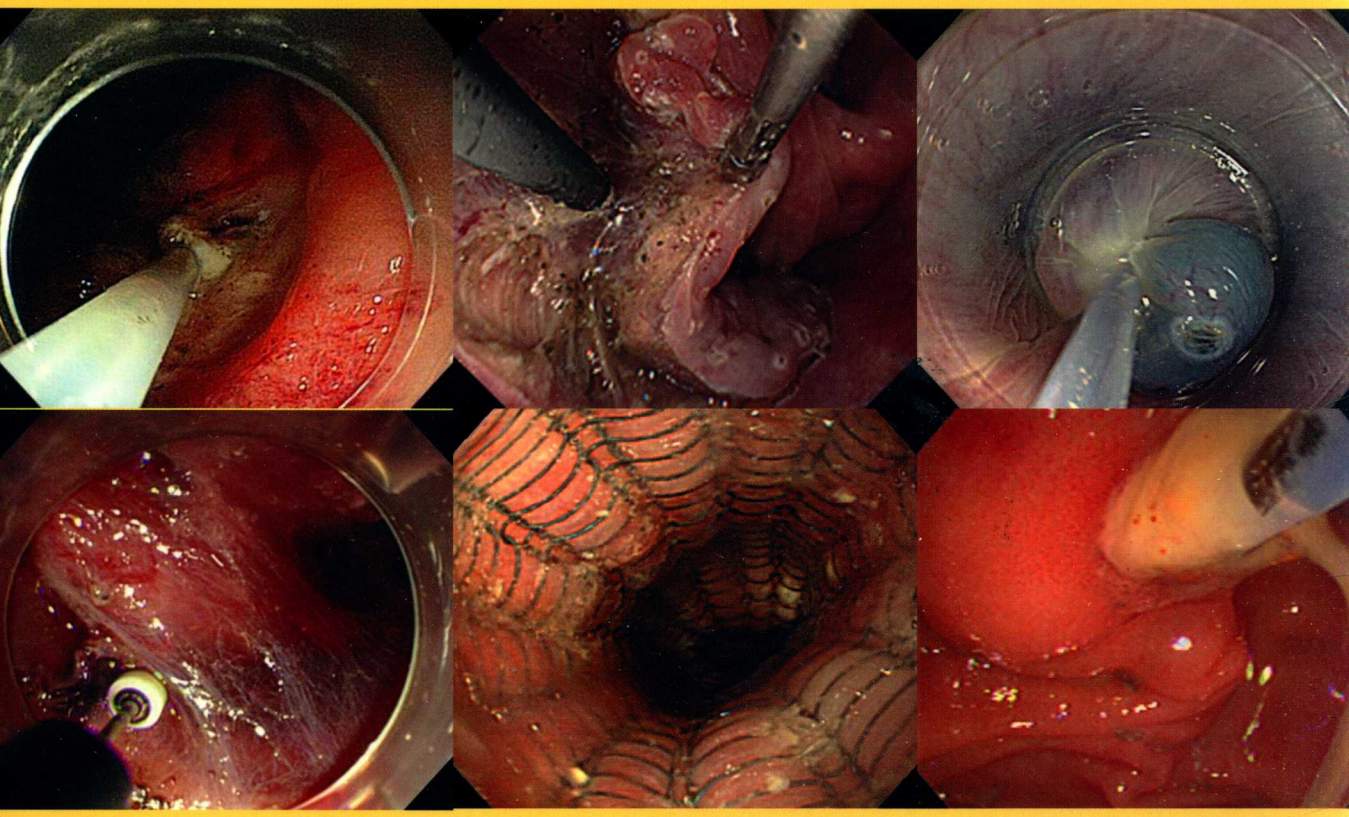
ENDOSCOPIA DIGESTIVA

2013 September
9
Vol.25 No.9
創刊25周年
記念増大号

最新
消化器内視鏡治療のすべて

Encyclopedia of The Latest Digestive Endotherapy

本特集号は，さまざまな内視鏡治療手技について，それぞれの分野のエキスパートが各手技の「基本と極意」を解説し，この一冊で読者が現在行われている消化器内視鏡治療手技のすべてを理解できるよう意図した。



東京医学社

消化器内視鏡
ENDOSCOPIA DIGESTIVA

最新
消化器内視鏡治療のすべて

Encyclopedia of The Latest Digestive Endotherapy

the 25th Anniversary
2013
Vol.25 No.9

編集後記

本誌は1989年に創刊された消化器内視鏡の専門誌である。本誌の特徴は，up to dateなテーマから基本・応用手技の解説に至るまで，消化器内視鏡に関わるさまざまな内容を，常に読者のニーズを意識しながら企画・編集している点にある。また一方で，わが国の消化器内視鏡のオピニオン・リーダーとして大いにその役割を果たしてきた。

小生が本誌の編集に係わったのは，1998年アメリカ留学中に本誌から編集幹事就任の誘いを受け，帰国後に当時大問題となっていた内視鏡の感染管理に関する特集のプランナーを任されたのが始まりである。当時，日本消化器内視鏡学会より内視鏡機器の洗浄・消毒に関わるガイドラインがすでに公表されていたが，多くの施設がこれを遵守することに四苦八苦していたのが現状であった。2000年本誌5月号「内視鏡および処置具の洗浄と消毒」と2003年1月号「内視鏡室の感染管理」の発行は，わが国における内視鏡の感染管理の普及に大いに役立ったのではないかと自負している。

創刊25周年記念特集号「最新消化器内視鏡治療のすべて」は，最新の内視鏡治療手技を隈なく解説するとともに，これまで新しい診断・治療手技を開発してきた開拓者たちの秘話を紹介し，四半世紀にわたる消化器内視鏡の進歩を知ることができるように構成されている。新しい内視鏡手技はある日突然出現するのではなく，われわれ消化器内視鏡医の日々の切磋琢磨のなかから生まれるのである。

本記念特集号が明日を担う若手医師への大いなるメッセージとなることを祈る。

（地方独立法人長野県立病院機構長野県立須坂病院内視鏡センター　赤松泰次）

「消化器内視鏡」編集委員会

ENDOSCOPIA DIGESTIVA Editorial Board

主　幹

榊　信廣　星原芳雄　岩男　泰　杉山政則

委　員

赤松泰次　有馬美和子　小原勝敏　貝瀬　満
長谷部　修　藤田直孝　藤盛孝博　峯　徹哉
安田健治朗　矢作直久　山本博徳

幹　事

池上雅博　大倉康男　樫田博史　河合　隆
後藤田卓志　小林清典　斎藤　豊　佐藤　公
中村哲也　松田浩二　良沢昭銘

名誉主幹

鈴木博昭　藤野雅之　酒井義浩　田中三千雄
幕内博康　熊井浩一郎

名誉委員

青木誠孝　浅木　茂　大竹寛雄　沖田　極
北島政樹　桑原紀之　田中雅夫　比企能樹
藤田力也　矢野右人　勝又伴栄　加藤　洋
桑山　肇　竹下公矢　荒川哲男　池田昌弘
乾　和郎　佐竹儀治　嶋尾　仁　長野正裕
原澤　茂　原田一道　平田信人　藤井隆広

消化器内視鏡　第25巻 第9号（通巻第294号）

2013年9月25日発行（毎月1回25日発行）
定価6,300円（本体6,000円）　送料164円
2013年（1～12月号）年間予約購読料　44,100円（税込）
（送料は弊社負担です。）
編集――――――――――消化器内視鏡編集委員会
発行――――――――――株式会社　東京医学社
〒113-0033 東京都文京区本郷3-35-4
編集部　TEL 03-3811-4119　FAX 03-3811-6135
販売部　TEL 03-3265-3551　FAX 03-3265-2750
E-mail: naishikyo@tokyo-igakusha.co.jp
振替口座　00150-7-105704

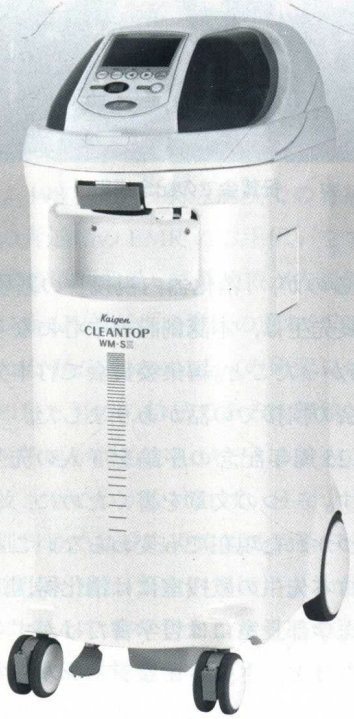
・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は株式会社東京医学社が保有します。
・JCOPY <㈳出版者著作権管理機構 委託出版物>
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は，そのつど事前に，㈳出版者著作権管理機構（電話03-3513-6969，FAX 03-3513-6979，e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。
Published by TOKYO IGAKUSHA Ltd. Printed in Japan©2013
広告申込所：㈱文栄社　〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1　TEL03-3814-8541

内視鏡反復使用時の消毒に

消化管内視鏡消毒装置〈電解酸性水〉

クリーントップ

WM-SⅡ



医療機器承認番号　22200BZX00656000
重　　量　95kg
外　　寸（mm）　W460×D730×H1110
※管理医療機器　※特定保守管理医療機器

- 洗浄記録管理ソフト標準装備（院内パソコンへの接続方式）
- 室内作業環境の確保（大気中の塩素濃度0.5ppm以下）
- 低い遊離残留塩素濃度で内視鏡の劣化を考慮
- 連続消毒可能なバッチ式

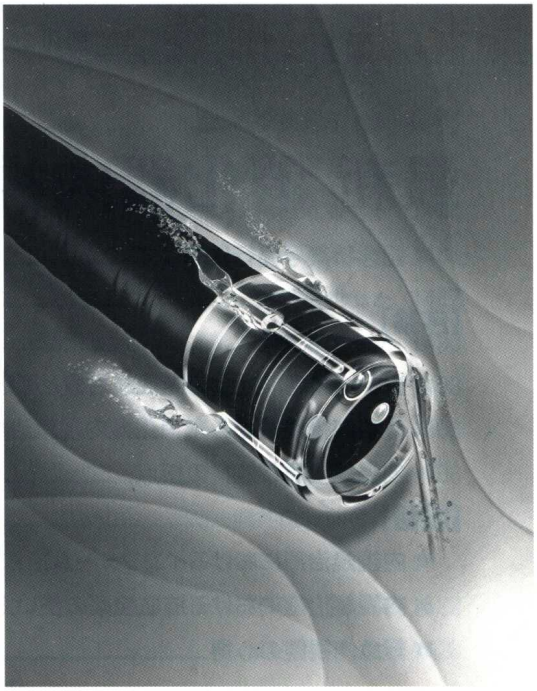
製造販売元
関西セイキ工業株式会社
大阪府東大阪市足代南1丁目16番12号
http://www.kansaiseiki.co.jp

販売元
KAIGEN カイゲンファーマ株式会社
大阪市中央区道修町二丁目5番14号〔資料請求先 商品企画部〕
http://www.kaigen-pharma.co.jp
※平成25年4月より株式会社カイゲンはカイゲンファーマ株式会社に社名変更いたしました。

内視鏡用装着フード

モールキャップ®

Spherical tip（球面先端）による内視鏡の「挿入性向上」とESDにおける「粘膜下層への潜り込み」



医療機器届出番号13B1X00085000091

特 長

■ 送水機能搭載タイプ

送水チューブ付きは、視野中央方向へ送水が可能、止血処置をサポートします。

●取り付け方向によって、任意の方向からの送水が可能です。

■ スムーズな排水を促すスリット&ホール機能

排水機能により、視野の妨げとなる液体を速やかに自然排出します。

■ 豊富なラインナップ

ご使用の内視鏡と用途に合わせて選べる9品種を揃えております。

TOP The TOP in Quality Since 1940

TOP PRODUCT LINE UP

―― 製品のご紹介 ――

医療機器認証番号 219AABZX00244000

トップ オーバーチューブ

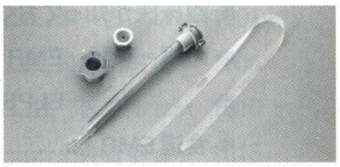
多様な検査・処置をサポート 全7タイプのダブルオーバーチューブ

特 長

■ よりソフトな材質の内筒・外筒チューブにより、食道粘膜への負担および損傷リスクを軽減します。

■ バイトブロックにはソフトなシリコンベルトが装着されており、噛み込み易く、安定感があります。

■ トップ固定ベルト同梱により、セットアップの手間を省きます。



製品の規格等は、お近くの支店・営業所までお問い合わせください。

製造販売業者
株式会社トップ
本社:〒120-0035
東京都足立区千住中居町19番10号

東京支店 tel:03-3811-9915
札幌営業所 tel:011-820-8383
千葉営業所 tel:043-214-1641
静岡営業所 tel:054-263-0824
広島営業所 tel:082-246-7651
名古屋支店 tel:052-834-3333
盛岡営業所 tel:019-645-3452
横浜営業所 tel:045-260-5271
京都営業所 tel:075-643-6351
鹿児島営業所 tel:099-265-4566
大阪支店 tel:06-6361-5831
仙台営業所 tel:022-265-3610
金沢営業所 tel:076-268-3370
神戸営業所 tel:078-341-1683
福岡支店 tel:092-472-4233
北関東営業所 tel:048-685-5797
新潟営業所 tel:025-244-2191
高松営業所 tel:087-866-5691

需要・入手・購入・販売・代理店募集 tel:0120-000-000 mail:info@tongbook.com

消化器内視鏡 ENDOSCOPIA DIGESTIVA 創刊25周年記念増大号 VOL. 25 NO. 9 SEPTEMBER 2013

特集

最新 消化器内視鏡治療のすべて

■ 記念特集号発行に向けて ..... 榊　信廣　1330

【序論】

■ 少子・超高齢社会の内視鏡治療と医療費増 ..... 竹本忠良 ほか　1334
■ 外科内視鏡医がみた消化器内視鏡治療の変遷 ..... 鈴木博昭　1337
■ 内視鏡治療と外科の接点 ..... 猪股雅史 ほか　1351

【総論】

■ 内視鏡治療におけるインフォームド・コンセントのあり方 ..... 熊井浩一郎 ほか　1354
■ 内視鏡治療における抗血栓薬の使い方 ..... 岩切龍一　1358
■ 緊急内視鏡の心得 ..... 佐藤　公 ほか　1363

【各論】

■ 消化管出血に対する診断・治療戦略 ..... 岡　志郎 ほか　1368

〔非静脈瘤病変からの出血に対する内視鏡治療〕

■ 出血性胃十二指腸潰瘍―クリップ法を第一選択とする止血術 ..... 丸山保彦 ほか　1374
■ ―局注法を第一選択とする止血術 ..... 引地拓人 ほか　1379
■ ―焼灼法を第一選択とする止血術 ..... 田辺　聡 ほか　1384
■ 腫瘍性病変からの顕出血 ..... 青井健司 ほか　1388
■ 大腸憩室出血 ..... 藤森一也 ほか　1392
■ 小腸出血 ..... 矢野智則 ほか　1397

〔静脈瘤出血に対する内視鏡治療〕

■ 食道静脈瘤に対する治療 ..... 中村真一 ほか　1401
■ 胃静脈瘤(Lg-f)に対する治療 ..... 菅　智明 ほか　1406
■ 異所性静脈瘤出血に対する治療 ..... 小原勝敏　1411

〔内視鏡的ポリペクトミー〕

■ 大腸 ..... 岸原輝仁 ほか　1419
■ 小腸 ..... 大宮直木 ほか　1423

〔EMR・ESD〕

■ 臨床医が知っておくべきEMR・ESD切除標本の取り扱い ..... 高橋亜紀子 ほか　1428
■ 咽頭・喉頭―EMR・ESD ..... 竹内　学 ほか　1433
■ ―ELPS ..... 川久保博文 ほか　1439
■ 食道EMR ..... 島田英雄 ほか　1443
■ 食道ESD―扁平上皮癌：ITナイフ ..... 田中雅樹 ほか　1450
■ ―扁平上皮癌：先端系ナイフ ..... 前田有紀 ほか　1455
■ ―扁平上皮癌：ハサミ型デバイス ..... 有馬美和子 ほか　1460

C O N T E N T S

■ 食道ESD—Barrett食道腺癌の診断と治療 ……高橋亜紀子 ほか 1465
■ 胃EMR—2チャンネル法 ……苅田幹夫 ほか 1471
■ —吸引法(EAMを中心に) ……鳥居惠雄 ほか 1476
■ 胃ESD—ITナイフ ……冨永直之 ほか 1481
■ —先端系ナイフ ……吉崎哲也 ほか 1487
■ —ハサミ型ナイフ ……本間清明 ほか 1493
■ 十二指腸 ……小田島慎也 ほか 1498
■ 大腸EMR ……樫田博史 1503
■ 大腸ESD—ITナイフ ……阿部清一郎 ほか 1508
■ —先端系ナイフ ……堀井城一朗 ほか 1517

〔粘膜下腫瘍に対する内視鏡治療〕

■ 上部消化管 ……貝瀬 満 ほか 1522
■ 下部消化管 ……趙 栄済 ほか 1528

〔消化管狭窄に対する内視鏡治療〕

■ 消化管狭窄に対する治療戦略と時代的変遷 ……前谷 容 ほか 1532
■ バルーン拡張術—術後狭窄 ……伊藤 透 ほか 1538
■ —Crohn病の狭窄病変に対する治療 ……浅野光一 ほか 1544
■ ステント挿入—悪性食道狭窄 ……長屋匡信 1548
■ —悪性幽門：十二指腸狭窄 ……古川浩一 ほか 1553
■ —悪性大腸狭窄 ……堀内 朗 ほか 1558

〔消化管異物に対する内視鏡治療〕

■ 上部消化管 ……赤松泰次 ほか 1562
■ 小腸 ……喜多宏人 1567

〔消化管捻転に対する内視鏡治療〕

■ 胃捻転 ……角 一弥 ほか 1571
■ 大腸捻転症 ……田村 智 1574

〔PEG〕

■ 経皮内視鏡的胃瘻造設術 ……鈴木 裕 1579

〔胆・膵〕

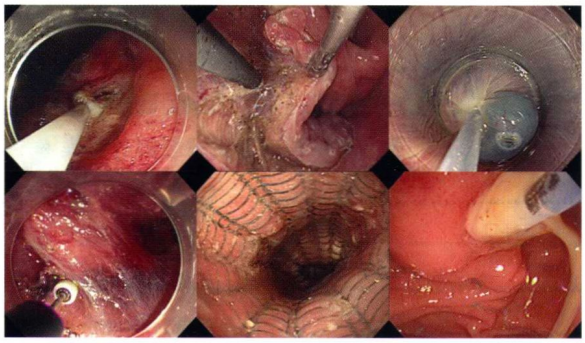
■ 内視鏡的胆管結石除去術 ……高橋邦幸 ほか 1589
■ 内視鏡的胆道ドレナージ—ENBD ……長谷部 修 ほか 1594
■ —EBD ……峯 徹哉 ほか 1601
■ 急性胆嚢炎に対する内視鏡的経乳頭的胆嚢ドレナージ ……良沢昭銘 ほか 1605
■ 内視鏡的乳頭切除術 ……辻 修二郎 ほか 1610
■ 膵嚢胞に対する内視鏡ドレナージ ……土井晋平 ほか 1615
■ 慢性膵炎に対する内視鏡治療 ……中瀬浩二朗 ほか 1619
■ EUS-FNAを応用した内視鏡治療 ……菅野良秀 ほか 1624

C O N T E N T S

【コラム】

■ 困惑の連続でした ..... 酒井義浩 1362
■ 純エタノール局注法のversion up：低温純エタノールを用いる氷結・固定法へ ..... 浅木　茂 1378
■ レーザー内視鏡学への展望 ..... 比企能樹 1383
■ 門脈圧亢進の病態からみた理論的食道・胃静脈瘤治療 ..... 小原勝敏 1405
■ 立つ鳥あとを濁さず ..... 田中三千雄 1417
■ 1972年，十二指腸下行部径20mm腫瘤を内視鏡で切除 ..... 藤野雅之 1422
■ 食道表在癌に対するEMR―開発の経緯と適応についての考え方 ..... 幕内博康 1447
■ EMR(2チャンネル法) ..... 多田正弘 1475
■ EMR(4点固定法) ..... 稲土修嗣 1480
■ ERHSEの開発 ..... 平尾雅紀 1491
■ ESD事始め―ITナイフの開発 ..... 小野裕之 1514
■ バルーン小腸内視鏡の開発 ..... 山本博徳 1543
■ 内視鏡的総胆管結石除去術 ..... 中島正継 1588
■ 「内視鏡的膵・胆管カテーテル持続留置法」とENBD ..... 永井規敬 1599
■ チャンネル付きESTナイフの開発 ..... 藤田直孝 1609
■ 治療内視鏡医 therapeutic endoscopistへ贈ることば ..... 鈴木博昭 1630
■ 小野美貴子先生を偲ぶ―人生とは何かを考える ..... 幕内博康 1634
■ 25周年に思うこと。もっと高く！ ..... 田中三千雄 1637

■次号予告・バックナンバー ....1638　■投稿規定....1639　■編集後記... 1640



今月の表紙

上段左：引地拓人　p1380
上段中：川久保博文　p1441
上段右：島田英雄　p1446
下段左：田中雅樹　p1453
下段中：長屋匡信　p1550
下段右：長谷部　修　p1594

□関連学会・研究会開催案内

第 7 回　NOTES 研究会　1486
第22回　肝病態生理研究会（演題募集）　1497
第23回　消化器とフリーラジカル研究会　1513
第 8 回　消化管の炎症を考える会　1531
第 3 回　関西消化器内視鏡ライブコース　1552

□ AD INDEX（五十音順）

アストラゼネカ㈱　ネキシウムカプセル　表紙 3
大塚製薬㈱　ムコスタ　1410
オリンパスメディカルシステムズ㈱　ESD デバイス　表紙 4
カイゲンファーマ㈱　クリーントップ　1332
㈱トップ　モールキャップ / オーバーチューブ　1321
富士フイルムメディカル㈱　FlushKnife BT　1328

消化器内視鏡 ENDOSCOPIA DIGESTIVA 創刊25周年記念増大号 VOL. 25 NO. 9 SEPTEMBER 2013

特集

最新 消化器内視鏡治療のすべて

■ 記念特集号発行に向けて ..... 榊　信廣　1330

【序論】

■ 少子・超高齢社会の内視鏡治療と医療費増 ..... 竹本忠良 ほか　1334
■ 外科内視鏡医がみた消化器内視鏡治療の変遷 ..... 鈴木博昭　1337
■ 内視鏡治療と外科の接点 ..... 猪股雅史 ほか　1351

【総論】

■ 内視鏡治療におけるインフォームド・コンセントのあり方 ..... 熊井浩一郎 ほか　1354
■ 内視鏡治療における抗血栓薬の使い方 ..... 岩切龍一　1358
■ 緊急内視鏡の心得 ..... 佐藤　公 ほか　1363

【各論】

■ 消化管出血に対する診断・治療戦略 ..... 岡　志郎 ほか　1368

〔非静脈瘤病変からの出血に対する内視鏡治療〕

■ 出血性胃十二指腸潰瘍―クリップ法を第一選択とする止血術 ..... 丸山保彦 ほか　1374
■ ―局注法を第一選択とする止血術 ..... 引地拓人 ほか　1379
■ ―焼灼法を第一選択とする止血術 ..... 田辺　聡 ほか　1384
■ 腫瘍性病変からの顕出血 ..... 青井健司 ほか　1388
■ 大腸憩室出血 ..... 藤森一也 ほか　1392
■ 小腸出血 ..... 矢野智則 ほか　1397

〔静脈瘤出血に対する内視鏡治療〕

■ 食道静脈瘤に対する治療 ..... 中村真一 ほか　1401
■ 胃静脈瘤(Lg-f)に対する治療 ..... 菅　智明 ほか　1406
■ 異所性静脈瘤出血に対する治療 ..... 小原勝敏　1411

〔内視鏡的ポリペクトミー〕

■ 大腸 ..... 岸原輝仁 ほか　1419
■ 小腸 ..... 大宮直木 ほか　1423

〔EMR・ESD〕

■ 臨床医が知っておくべきEMR・ESD切除標本の取り扱い ..... 高橋亜紀子 ほか　1428
■ 咽頭・喉頭―EMR・ESD ..... 竹内　学 ほか　1433
■ ―ELPS ..... 川久保博文 ほか　1439
■ 食道EMR ..... 島田英雄 ほか　1443
■ 食道ESD―扁平上皮癌：ITナイフ ..... 田中雅樹 ほか　1450
■ ―扁平上皮癌：先端系ナイフ ..... 前田有紀 ほか　1455
■ ―扁平上皮癌：ハサミ型デバイス ..... 有馬美和子 ほか　1460

C O N T E N T S

■ 食道ESD—Barrett食道腺癌の診断と治療 ……高橋亜紀子 ほか 1465
■ 胃EMR—2チャンネル法 ……苅田幹夫 ほか 1471
■ —吸引法(EAMを中心に) ……鳥居惠雄 ほか 1476
■ 胃ESD—ITナイフ ……冨永直之 ほか 1481
■ —先端系ナイフ ……吉崎哲也 ほか 1487
■ —ハサミ型ナイフ ……本間清明 ほか 1493
■ 十二指腸 ……小田島慎也 ほか 1498
■ 大腸EMR ……樫田博史 1503
■ 大腸ESD—ITナイフ ……阿部清一郎 ほか 1508
■ —先端系ナイフ ……堀井城一朗 ほか 1517

〔粘膜下腫瘍に対する内視鏡治療〕

■ 上部消化管 ……貝瀬 満 ほか 1522
■ 下部消化管 ……趙 栄済 ほか 1528

〔消化管狭窄に対する内視鏡治療〕

■ 消化管狭窄に対する治療戦略と時代的変遷 ……前谷 容 ほか 1532
■ バルーン拡張術—術後狭窄 ……伊藤 透 ほか 1538
■ —Crohn病の狭窄病変に対する治療 ……浅野光一 ほか 1544
■ ステント挿入—悪性食道狭窄 ……長屋匡信 1548
■ —悪性幽門：十二指腸狭窄 ……古川浩一 ほか 1553
■ —悪性大腸狭窄 ……堀内 朗 ほか 1558

〔消化管異物に対する内視鏡治療〕

■ 上部消化管 ……赤松泰次 ほか 1562
■ 小腸 ……喜多宏人 1567

〔消化管捻転に対する内視鏡治療〕

■ 胃捻転 ……角 一弥 ほか 1571
■ 大腸捻転症 ……田村 智 1574

〔PEG〕

■ 経皮内視鏡的胃瘻造設術 ……鈴木 裕 1579

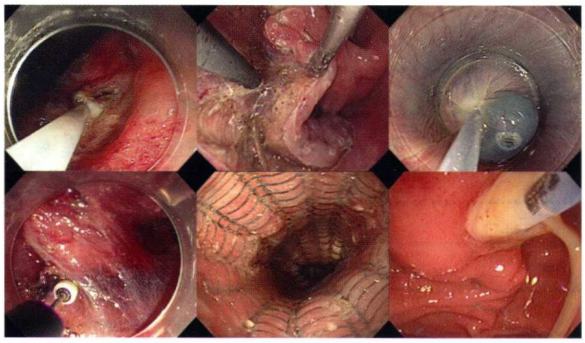
〔胆・膵〕

■ 内視鏡的胆管結石除去術 ……高橋邦幸 ほか 1589
■ 内視鏡的胆道ドレナージ—ENBD ……長谷部 修 ほか 1594
■ —EBD ……峯 徹哉 ほか 1601
■ 急性胆嚢炎に対する内視鏡的経乳頭的胆嚢ドレナージ ……良沢昭銘 ほか 1605
■ 内視鏡的乳頭切除術 ……辻 修二郎 ほか 1610
■ 膵嚢胞に対する内視鏡ドレナージ ……土井晋平 ほか 1615
■ 慢性膵炎に対する内視鏡治療 ……中瀬浩二朗 ほか 1619
■ EUS-FNAを応用した内視鏡治療 ……菅野良秀 ほか 1624

【コラム】

■ 困惑の連続でした……酒井義浩 1362
■ 純エタノール局注法のversion up：低温純エタノールを用いる氷結・固定法へ……浅木　茂 1378
■ レーザー内視鏡学への展望……比企能樹 1383
■ 門脈圧亢進の病態からみた理論的食道・胃静脈瘤治療……小原勝敏 1405
■ 立つ鳥あとを濁さず……田中三千雄 1417
■ 1972年，十二指腸下行部径20mm腫瘤を内視鏡で切除……藤野雅之 1422
■ 食道表在癌に対するEMR―開発の経緯と適応についての考え方……幕内博康 1447
■ EMR(2チャンネル法)……多田正弘 1475
■ EMR(4点固定法)……稲土修嗣 1480
■ ERHSEの開発……平尾雅紀 1491
■ ESD事始め―ITナイフの開発……小野裕之 1514
■ バルーン小腸内視鏡の開発……山本博徳 1543
■ 内視鏡的総胆管結石除去術……中島正継 1588
■ 「内視鏡的膵・胆管カテーテル持続留置法」とENBD……永井規敬 1599
■ チャンネル付きESTナイフの開発……藤田直孝 1609
■ 治療内視鏡医 therapeutic endoscopistへ贈ることば……鈴木博昭 1630
■ 小野美貴子先生を偲ぶ―人生とは何かを考える……幕内博康 1634
■ 25周年に思うこと。もっと高く！……田中三千雄 1637

■次号予告・バックナンバー ....1638　■投稿規定....1639　■編集後記... 1640



今月の表紙

上段左：引地拓人　p1380
上段中：川久保博文　p1441
上段右：島田英雄　p1446
下段左：田中雅樹　p1453
下段中：長屋匡信　p1550
下段右：長谷部　修　p1594

□関連学会・研究会開催案内

第 7 回　NOTES 研究会　1486
第22回　肝病態生理研究会（演題募集）　1497
第23回　消化器とフリーラジカル研究会　1513
第 8 回　消化管の炎症を考える会　1531
第 3 回　関西消化器内視鏡ライブコース　1552

□ AD INDEX（五十音順）

アストラゼネカ㈱　ネキシウムカプセル　表紙 3
大塚製薬㈱　ムコスタ　1410
オリンパスメディカルシステムズ㈱　ESD デバイス　表紙 4
カイゲンファーマ㈱　クリーントップ　1332
㈱トップ　モールキャップ / オーバーチューブ　1321
富士フイルムメディカル㈱　FlushKnife BT　1328

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

ENDOSCOPIA DIGESTIVA

Volume 25, Number 9, September 2013

CONTENTS

Special Issue
Encyclopedia of The Latest Digestive Endotherapy

Towards the issuing of a memorial issue — *Nobuhiro Sakaki* 1330

【Introduction】

The ethics and philosophy in endoscopic therapy — *Tadayoshi Takemoto and Kazumichi Harada* 1334
History of endoscopic therapy as seen from surgery — *Hiroaki Suzuki* 1337
A dialogue between endoscopic therapy and endoscopic surgery — *Masafumi Inomata and Seigo Kitano* 1351

【General remarks】

Informed consent for digestive endotherapy — *Koichiro Kumai et al.* 1354
Endoscopic procedures for patients receiving anticoagulant and antiplatelet therapy — *Ryuichi Iwakiri* 1358
Must-do's in emergency endoscopy — *Tadashi Sato et al.* 1363

【Particulars】

Diagnostic and therapeutic strategy for gastrointestinal bleeding — *Shiro Oka et al.* 1368
Endoscopic clipping for gastroduodenal ulcer bleeding — *Yasuhiko Maruyama et al.* 1374
Hemostasis using local injection for hemorrhagic gastric and duodenal ulcers — *Takuto Hikichi et al.* 1379
Coagulation hemostasis for gastric and duodenal ulcer bleeding — *Satoshi Tanabe et al.* 1384
Endoscopic hemastasis for bleeding from neoplastic lesions — *Kenji Aoi and Ryu Ishihara* 1388
Endoscopic band ligation for colonic diverticular bleeding — *Kazuya Fujimori* 1392
Small intestinal bleeding — *Tomonori Yano et al.* 1397
Endoscopic treatment for esophageal variceal bleeding — *Shinichi Nakamura et al.* 1401
Endoscopic treatment for gastric varices — *Tomoaki Suga et al.* 1406
Treatment of ectopic variceal bleeding — *Katsutoshi Obara* 1411
Endoscopic polypectomy of large intestine — *Teruhito Kishihara and Masahiro Igarashi* 1419
Enteroscopic polypectomy of small bowel — *Naoki Ohmiya et al.* 1423
The management of resected specimens using EMR and ESD — *Akiko Takahashi et al.* 1428
Endoscopic treatment for superficial pharyngeal carcinoma — *Manabu Takeuchi et al.* 1433
Endoscopic laryngo-pharyngeal surgery — *Hiforumi Kawakubo et al.* 1439
EMR in the esophagus — *Hideo Shimada et al.* 1443
ESD with IT knife for squamous cell carcinoma of the esophagus — *Masaki Tanaka and Hiroyuki Ono* 1450
Endoscopic submucosal dissection for esophageal cancer using pointed tip knives — *Yuki Maeda et al.* 1455
Endoscopic submucosal dissection for esophageal cancer using the Clutch Cutter — *Miwako Arima et al.* 1460
The diagnosis and treatment for Barrett's esophageal adenocarcinoma — *Akiko Takahashi and Tsuneo Oyama* 1465

Successive strip biopsy partial resection technique for large gastrointestinal cancer *Mikio Karita et al.* *1471*
The suck and cut method with special attention to endoscopic aspiration mucosectomy *Ayao Torii et al.* *1476*
Endoscopic submucosal dissection for gastric cancer using IT knife *Naoyuki Tominaga et al.* *1481*
ESD for gastric cancer using pointed tip knives *Tetsuya Yoshizaki and Takashi Toyonaga* *1487*
Scissors type forceps for ESD in the stomach *Kiyoaki Homma et al.* *1493*
Endoscopic resection for duodenal tumors *Shinya Kodashima et al.* *1498*
Colorectal endoscopic mucosal resection *Hiroshi Kashida* *1503*
Endoscopic submucosal dissection for large intestine using IT knife *Seiichiro Abe et al.* *1508*
Colorectal ESD with pointed tip knives *Joichiro Horii et al.* *1517*
Endoscopic resection of submucosal tumors of the upper gastrointestinal tract *Mitsuru Kaise and Shu Hoteya* *1522*
Endoscopic treatment of submucosal tumors in the colo-rectum *Eisai Cho et al.* *1528*
Strictures of the gastrointestinal tract : Treatment strategies and their historical transition *Iruru Maetani and Hitoshi Shimao* *1532*
Endoscopic balloon dilatation : EBD—Post-operative stenosis *Toru Ito et al.* *1538*
Endoscopic balloon dilation for intestinal strictures in Crohn's disease *Kouichi Asano et al.* *1544*
Malignant esophageal stenosis *Tadanobu Nagaya* *1548*
Usefulness of the self-expandable stent through the scope for gastric outlet obstruction *Koichi Furukawa et al.* *1553*
Malignant colorectal stenosis *Akira Horiuchi et al.* *1558*
Endoscopic management of foreign bodies in the upper gastrointestinal tract *Taiji Akamatsu et al.* *1562*
Endoscopic treatment for foreign matter of the small intestine *Hiroto Kita* *1567*
Endoscopic therapy for gastric volvulus *Kazuya Sumi et al.* *1571*
Colonic volvulus *Satoru Tamura* *1574*
Percutaneous Endoscopic Gastrostomy : PEG *Yutaka Suzuki* *1579*
Endoscopic removal of bile duct stones *Kuniyuki Takahashi et al.* *1589*
Endoscopic nasobiliary drainage : ENBD *Osamu Hasebe et al.* *1594*
Endoscopic biliary drainage : EBD *Tetsuya Mine et al.* *1601*
Endoscopic transpapillary gallbladder drainage for acute cholecystitis *Shomei Ryozawa et al.* *1605*
Endoscopic papillectomy *Shujiro Tsuji et al.* *1610*
Endoscopic management of pancreatic pseudocyst *Shinpei Doi et al.* *1615*
Endoscopic treatment for chronic pancreatitis *Kojiro Nakase et al.* *1619*
Endoscopic interventions developed from EUS-FNA techniques *Yoshihide Kanno et al.* *1624*

[**Column**]

Continuous confusion *Yoshihiro Sakai* *1362*
Improvements in PEI hemostasis as a tissue freezing solidifying method using low temperature pure ethanol *Shigeru Asaki* *1378*
Perspectives on laser endoscopy in the future *Yoshiki Hiki* *1383*
Theoretical treatment for esophago-gastric varices from the pathogenesis of portal hypertension *Katsutoshi Obara* *1405*

Birds that take off do not leave messy nests — *Michio Tanaka* 1417
Twenty millimeter-sized mass in descending part of duodenum resected endoscopically in 1972 — *Masayuki A. Fujino* 1422
EMR for superficial esophageal cancer : Adaptation and the history of development — *Hiroyasu Makuuchi* 1447
EMR (double-channel method) — *Masahiro Tada* 1475
EMR (four-point fixation method) — *Shuji Inatsuchi* 1480
Development of ERHSE — *Masanori Hirao* 1491
The history of ESD : Development of the IT knife — *Hiroyuki Ono* 1514
Development of balloon-assisted enteroscopy — *Hironori Yamamoto* 1543
Endoscopic removal of common bile duct stone surgery — *Masatsugu Nakajima* 1588
ENBD or Continuous endoscopic pancreatocholedochal catheterization — *Noriyoshi Nagai* 1599
Development of a sphincterotome with a guidewire channel — *Naotaka Fujita* 1609
Words to give therapeutic endoscopists — *Hiroaki Suzuki* 1630
Remembering Dr. Mikiko Ono : I think of something to do with life — *Hiroyasu Makuuchi* 1634
What I think at the 25th anniversary — *Michio Tanaka* 1637

TOKYO IGAKUSHA Ltd. 35-4 Hongo 3-chome, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033 Japan

FUJIFILM

この先端形状が ESDをやさしくする。

FlushKnife BT

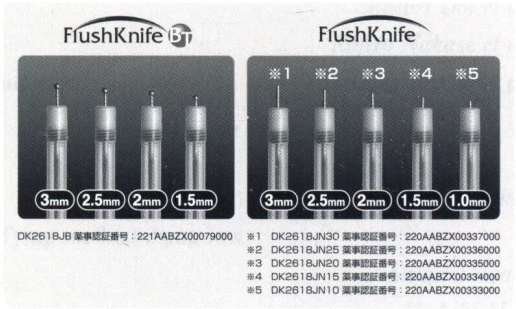
ディスポーザブル高周波ナイフ

マーキング 切開 剥離 止血 送水機能 安全設計

ESD術者への「使いやすさ」を目指して

Flush Knife BTは送水機能を有し、マーキングから切開、剥離、止血まで行なえ「使いやすさ」で定評あるFlush Knifeの優れた機能に加え、より安全にESDが行なえる先端形状としました。先端をボール形状とすることで剥離時にトラクションがかかり易く、スムーズな剥離操作が行なえるだけでなく、組織との接触面が広くなったことで高い止血効果が発揮できます。また、突出長が選べる豊富なラインナップを有していますので、幅広い処置へご活用いただけます。

Flush Knife シリーズ



DK2618JB 薬事認証番号：221AABZX00079000

※1 DK2618JN30 薬事認証番号：220AABZX00337000
※2 DK2618JN25 薬事認証番号：220AABZX00336000
※3 DK2618JN20 薬事認証番号：220AABZX00335000
※4 DK2618JN15 薬事認証番号：220AABZX00334000
※5 DK2618JN10 薬事認証番号：220AABZX00333000

一般的名称：単回使用高周波処置用内視鏡能動器具
薬事販売名：ディスポーザブル高周波ナイフ
製造販売業者：富士フイルム株式会社

富士フイルム メディカル株式会社

〒106-0031 東京都港区西麻布2丁目26番30号 富士フイルム西麻布ビル tel.03-6419-8033(代) http://fms.fujifilm.co.jp

消化器内視鏡
ENDOSCOPIA DIGESTIVA

最新
消化器内視鏡治療のすべて

Encyclopedia of The Latest Digestive Endotherapy

the 25th Anniversary
2013
Vol.25 No.9

創刊25周年記念特集「最新消化器内視鏡治療のすべて」

記念特集号発行に向けて

榊　信廣 *Nobuhiro SAKAKI*
公益財団法人早期胃癌検診協会

本誌は，「消化器内視鏡」の創刊25周年を記念して特別に編集しました。創刊された1989年は，日本にとって激動の時代でした。1月8日には「昭和」から「平成」に改元されました。年末の東証の大納会では，日経平均株価が史上最高の38,915円87銭を記録し，これを最後に日本のバブル景気は崩壊しました。そんな時代に本誌は誕生しました。

消化器内視鏡の分野も大きく変わりつつある時代でした。筆者の個人的な経験で恐縮ですが，1985年から東京都立駒込病院での勤務を開始し，その直後に偶然にも *Helicobacter pylori* に出合いました。一方，strip bÑpsy として内視鏡的粘膜切除術（EMR）を開発した多田正弘先生の講演で地ならしした後に，1987年から駒込病院での胃癌のEMRを開始しました。そして，門馬久美子先生の日本初の食道癌のEMRのお手伝いをすることができました。不惑の年齢になっていた筆者は，消化管癌の早期発見・早期治療が内視鏡1本で可能な時代になったことの感動とともに，悪性腫瘍の治療に係る内視鏡医の責任の重さを実感したことを思い出します。

日本にとって黒船のようであった *Helicobacter pylori* の研究にはノーベル賞が授与されましたが，数多くの日本人内視鏡医の知恵と努力の結晶である内視鏡治療の発展が医療に与えた影響はそれ以上のものです。日本の医学界が誇ることができる数少ない業績でもあり，もっと日本から世界に発信して全世界に普及させていかなければいけないと考えます。

「消化器内視鏡」1989年4月創刊号では「内視鏡的減黄術―悪性閉塞性黄疸に対して」が特集され，その後「早期胃癌の内視鏡的治療」「緊急内視鏡による止血」と続きました。その後も，本誌は治療内視鏡の進歩とともに歩んでまいりました。そのような意味を込めて，本誌創刊25周年記念号のテーマは「最新消化器内視鏡治療のすべて」としました。さらに，過去の感傷にふけるのではなく，現時点で役に立つ最新の知識を読者にお伝えすることが本誌らしさであるとの編集委員会の結論であったことから，あえて「最新」とタイトルに付け加えました。この1冊で，内視鏡的止血，腫瘍切除から胆膵領域までの現在行われている治療内視鏡のすべてを紹介することで，単なる記念号ではなく，若い内視鏡医に「今」役に立つ本ができたと自負しております。

さまざまな治療手技を開発された先生には，苦労話や思い入れなどを書いていただきました。短いコラムですが，ベテランの内視鏡医には開発者の思いを感じ，その治療手技を覚えた若い頃を振り返っていただければと筆者は密かに思っています。

本年2013年7月12日には，第300回の編集会議が開かれました。記念すべき編集会議は，いつになくスムーズに終了して，記念の祝賀会に移りました。その時の写真を掲載いたしますが，開催時間前の撮影となったため，藤田力也先生や有馬美和子先生，斎藤　豊先生といった超多忙な若手が撮影時間に間に合わなかったことを宴会幹事としてお詫びいたします。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com